市川学園第三教育センター通信

実況中継「土曜講座」

第１３号　　２０２４年 2月 3日 発行

市川学園　１月２７土曜講座　　於、北館１F 多目的ホール

江川雅子先生

グローバル時代をどう生きるか～多様性を力にする～

成蹊学園学園長

江川雅子先生の紹介

東大卒業後、ハーバード大学修士課程卒業。外資系金融機関に勤務後、一橋大学博士課程卒業。ハーバードビジネススクール日本リサーチ長・東京大学女性初の理事就任・一橋大学教授と歴任され、現在は成蹊大学学園長を務める。女性の社会進出が全く認められていなかった時代から外資系金融機関で能力を発揮し、現在はアカデミックな世界で活躍の場を広げる。

主な講義内容の紹介

江川先生の自己紹介から始まりますが、今後のグローバル時代を生きていくヒントが江川先生の生き方から見つけることが出来ます。1979 年に東京大学を卒業し社会に出て行きますが女性の働き口はほぼなかった時代です。どのようにして男社会で活躍の場を広げて行かれたのか。是非ご覧下さい。グローバル時代を席巻されてきたと言っても過言ではない江川先生より、世界を舞台に活躍する人材に求められるものを分かりやすく、また強い説得力で話していただきました。世界的多様性のピースになるための具体的な生き方を示してくださいます。

触りだけこちらに記させていただきます。グローバル時代とは「世界と地方が直結し、国境の垣根が低くなる時代」多様な国籍・文化的背景の人達と協働する社会である。これからは「多様性を重んじる時代」になる。日本の中で人材を見つけ出すよりも世界の中で人材を見つけ出す方が優秀な方は見つかる。言わずもがな大切な能力にコミュニケーション能力がある。英語は道具として、「話す中身が大切！」中高生で学んでいる全ての教科はその人の教養となる。教養はその人の考え方の軸を築く。これは本編の触りである。気になった方は是非第三教育センターへ。

生徒の主な質問・感想

・普段「グローバル化・グローバル社会」という言葉をよく耳にするが、実際何が何なのかよくわかっていなかったが、今日の話を聞くと、グローバル化の実態・メリット・求められることなど色々なことがわかった。多様性の考えや思考はこれから世界で活躍していくのに大切だなと改めて思った。グローバル社会を生きる上で私たちのような考えを述べない生き方だと活躍できず、自分の意見をしっかり伝えられる力がないといけないと感じた。異文化に対応するのはすごい大変なので、日本にいる時からちゃんと自分を持っていられるようにしたい。英語の力を伸ばすために、まず英語に自分からたくさん触れてみようと思う。T 字型の教育の大切さを知ることができた。幅のある教養を学べるように今やっている授業や勉強をおろそかにせず、様々な分野の学びを体験したい。先生がお勧めしていた留学など働き始めたらできないことを若いうちに取り組んで視野を広げていきたい。　（中 2 女子）

・これから社会で生きる中でとても重要な話がたくさんあったと思う。まだ学生で家族社会・学校社会など限られた社会の中でしか人と関わりを持たないので、ぴんと来なかった話も多いし、ニュースの中でしか世界を見る事は無い。将来、グローバル時代と言うものに関わりがない仕事に就くかもしれないが、多様性というのはとても身近にあり、そしてとても重要だということがわかった。今主に国語(現代文)の授業で行っている事は将来役に立つとわかり、これからはそのことを意識しながら積極性を持とうと思った。1 番印象に残ったのは多様性のない組織が起こした問題である。同時多発テロ、福島原発事故の例が出たのには驚いた。関連した本を読んでみようと思う。また日本人の特性について、これから生きていく上で妨げになる。この事は〝今〟現代文の授業の内容でも行っているので、これからも考えていこうと思う。　（中 2 女子）

・ 今まで曖昧な定義で捉えていた多様性について、どんな要素・側面があって、どのように向き合えばいいのかがはっきりしてきました。単に相手を受け入れる力とひとくくりにせず、そのための論理的思考力や教養などと分解して考えることで、改めて今まで学習してきたことの意義を考え直すことができ、とても楽しい講座でした！考えたこととして、今まで「議論」や「ダイバーシティー」という言葉には「人と違っても良い」「自分は自分、他人は他人」と言うおよそバリアのような役割をイメージしていましたが、今回の講演を通して「相手を理解して共創する」という意味の多様性の力に気づかされました。この体験を基にこれからは多様性を認めて、温かいコミュニケーションを作ることを目指したいと思います。　（中 3 男子）

・同質的な組織では、集団浅慮が起こると取り返しのつかない失敗が起こるかもしれないとわかった。私も部活動では部長として部をまとめているが、考えの異なる部員を 1 つにまとめる事は難しいと感じている。そういったときにはどうしても全員が同じような考えを持って欲しいと考えてしまうか、この講座を通して部が崩壊するリスクを減らすには、自分と異なる考えを持つ人がいることが大切だと気づいた。多様性が重視されている時代では、海外の企業ではもちろん、日本の企業でも様々な人がいるので、自分の意見を出す必要性が上がっていると分かった。私は十数年間英会話に通ってきて、英語は多少話せるようになったが、意見を聞かれても「I don't know.」や「Anything ok.」などと自分の意見を明確にしないで会話することがあった。しかし今回の講座を受けて、これからの時代では、自分の意見をはっきりと相手に伝えることが重要だとわかった。これはすぐに変えることができるわけではないと思うので、日頃の生活で少しずつ自分の意見を伝えていこうと思う。多様性を実感するのに最適な方法は海外に行ってそれを実感することだと思うので、大学に入ってそのような機会があったら、積極的に参加してみようと思う。　（5 年男子）

（文責　北圃 鉄朗 先生）